

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 215 号 (2025. 1. 1)
事務局 川西地区自主防災会

2025 年 明けましておめでとうございます

かがわ自主ぼう連絡協議会 年頭のごあいさつ

新しい年を迎え、抱負の一旦をのべさせていただきます。まずは、昨年お世話になりました関係者の皆様にお礼申し上げるしだいです。

抱負の 1 ですが、昨年の秋から取組んでおります自主防災組織と地域企業の皆様との連携協定です。昔風で言う異業種交流であります。私達の自主防災活動を理解していただき、その弱い部分を企業の皆様に支えていただきつつ意見交換を重ね、共に合体したパワーによって該当地域の安心・安全を確実にしたいと思っています。

抱負の 2 ですが、これからの日本や香川県を支えていく、青少年の皆様への防災教育の支援活動を広範囲に広げていきたい、この中で加え昼間仕事をしながら夜間高等学校で修学されている皆さんへの防災研修も展開したいと思っています。

とにかく、きたるべく南海トラフ地震への対応は、「まったなし」の状況だと感じており、関係機関の力を結集して地域防災力の強化に努めてまいりたいと思っています。



かがわ自主ぼう連絡協議会
会長 岩崎 正朔

香川県危機管理総局長 新年ごあいさつ

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様、新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、日頃から共助の要として、地域防災力の充実・強化に多大なご尽力をいただいております、誠にありがとうございます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、令和6年1月1日に発生した能登半島地震から1年が過ぎました。また、8月には、日向灘を震源とする最大震度6弱の地震が発生し、気象庁から初めて南海トラフ地震臨時情報が発表されたほか、県内で初めて線状降水帯が発生し、被害に見舞われるなど、本県においても大規模災害がいつ発生してもおかしくない状況にあります。

こうした中、避難所の生活環境の確保など、能登半島地震での課題を踏まえ、防災・減災対策を着実に進めていかなければならないとの思いを強くしているところです。

こうした大規模災害時において被害を軽減するためには、自助・共助・公助が連携・協働することが極めて重要です。能登半島地震においても、日頃のコミュニティでの防災訓練等が功を奏し、地区住民全員が助かった事例がいくつもあり、共助の要である自主防災組織の果たす役割は、ますます大きなものとなっています。今後とも、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様が行っている先進的な取り組みなどを、この「防災・減災の輪」を通じて、県内の自主防災組織全体へ広げていただき、各地域での活動が一層活発になるよう願っております。

県においては、今年も、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様方とさらに連携を密にし、自主防災組織の防災活動への地域企業の参画促進に向けた支援のほか、自主防災組織等が実施する防災訓練に対する支援や地区防災計画の策定に対する支援など、自主防災活動が活性化されるように取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

結びに、かがわ自主ぼう連絡協議会の今後ますますのご発展と、今年が皆様方とご家族にとってより良き年となりますよう心から祈念いたしまして、年始のご挨拶とさせていただきます。

香川県危機管理総局長
石川 恵市